学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	飯沼　清子 【比較社会文化学専攻】 （國學院大學大学院文学研究科博士課程 1982年3月　単位修得退学）
論 文 題 目	源氏物語と漢世界
審 査 委 員	（主　　査）准教授　　松岡　智之
	（副　　査）教　授　　古瀬奈津子
	（副　　査）講　師　　藤川　玲満
	（審査委員）教　授　　浅田　　徹
	（審査委員）教　授　　和田　英信
インターネット公表	○　学位論文の全文公表の可否（ ~~可~~ ・ 否 ） ○　「否」の場合の理由 ア．当該論文に立体形状による表現を含む イ．著作権や個人情報に係る制約がある ウ．出版刊行されている、もしくは予定されている エ．学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ．特許の申請がある、もしくは予定されている ※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

要　　旨

2019 年 6 月の後期専攻会議で設置が認められたことを承け、7 月 31 日に第 1 回審査委員会を実施した。本申請論文は、貴族の日記（古記録）等の史料を用いて、『源氏物語』をはじめとする日本古典文学の中にある中国文化（漢世界）のあり方を解明する研究をまとめた論文であるが、まず、本論文の中核となる各章の主要な節が日本文学・日本文化研究の一流学会誌に初出の論文によること、複数の初出論文が他者の研究論文に引用され、事典等に主要参考文献として紹介されて高い評価を得ていることを確認した。次いで審査委員相互の意見交換では、『源氏物語』などに語られる中国由来の文物を取り上げた着眼点の鋭さや『御堂関白記』『小右記』などを対象とした史料調査の的確さが高く評価された。具体的には藤原道長執政期における作文会の開催の多さや白居易と並んで元稹の漢詩が平安貴族に愛好されたことを実証的に示したこと等の功績が大きいと評された。その一方で、論文全体の研究目的や研究成果のまとめの記述が不十分であること、「家」等の用語の使用法に関する違和感が指摘され、また、一部の史料読解や作品解釈に関する疑問点が提示された。これらをふまえて申請者との質疑応答がなされ、序章を改訂し、簡単な「あとがき」にとどまっていたところを終章として充実させることにした。

8 月 20 日～24 日に、電子メール等による持ち回りで第 2 回審査委員会を開催し、改訂箇所の審査等を行った。審査委員から、序章における問題設定、終章における結論の記述のさらなる明確化を求める意見が出された。

9 月 2 日に公開発表と最終試験とを実施した。改訂箇所の適切さの確認、課程修了者と同等以上の学識及び外国語能力を有することの確認がなされ、審査委員の全員一致で飯沼清子氏の提出論文は博士（人文科学）（Ph. D. in Japanese Literature）の学位を授与するにふさわしく合格であると決定した。

学位論文のインターネット上の全文公表については、本論文の主要な部分（改訂、追加された序章・終章以外）がすでに出版社（新典社）から 2018 年 5 月に刊行されていることから、「否」とする。